

自然教育園の多足類

高野 光 男*

Myriapods of the Institute for Nature Study in Tokyo

Mitsuo Takano *

はじめに

国立科学博物館附属自然教育園における多足類相の調査は、これまで高島・篠原 (1949)、篠原 (1966, 1981) の3回行われており、唇脚類19種、倍脚類12種が報告されている。

今回、1998年8月～2000年3月にかけて計7回の調査を実施したのでここに報告する。

1. 調査方法

調査は、自然教育園内の4植生8か所を調査区として、25cm×25cmの方形枠によるシフティング調査 (1998-VII-23, 1999-VII-28 の2回) と一定時間採集法 (1999-VII-28, 1999-XI-7 の2回) により調査を行い、補足として自然教育園全域におけるハンドソーティング調査を行った。

なお報告にあたり、標本を恵与頂いた自然教育園の久居先生に感謝致します。

2. 多足類目録

CHILOPODA ムカデ綱

SCUTIGEROMORPHA ゲジ目

Scutigeridae ゲジ科

1. *Thereuonema tuberculata* (Wood, 1863) ゲジ

2exs. (1999-VII-27), 2exs. (1999-VII-28)

園内では今回初めて記録されたが、日本各地に広く分布する種であり、東京近郊においても普通種である。乾燥した崖地に多く生息している。

2. *Thereuopoda clunifera* (Wood, 1862) オオゲジ

1ex. (1999-VII-28), 2exs. (1999-XI-7)

台湾および日本の各地に分布するが、園内では高島・篠原 (1949) に記録された後、報告されていなかった種である。今回園内数カ所の倒木下の空所で群生が見られた。

* 鶴見女子高等学校, Turumi Girl's Senior High School, Yokohama, Kanagawa

Lithobiomorpha イシムカデ目

Lithobiidae イシムカデ科

3. *Bothropolys asperatus* (L. Koch, 1878) イッスンムカデ

21exs. (1998-VII-23), 6exs. (1998-VII-25), 9exs. (1998-VII-27), 47exs. (1999-VII-28),
18exs. (1999-VII-28), 39exs. (1999-XI-7)

日本各地で記録される種であり、当園においても普通種である。

4. *Lithobius sulcipes sulcipes* (Attems, 1927) スジイシムカデ

1ex. (1999-XI-7)

本種は関東周辺地域特に神奈川県に多く記録されている種であり、今回園内より初めて記録された種である。これまで *L. sp.* として記録されていた種は本種と思われる。

Lithobius sp. イシムカデ属の一種

2exs. (1999-VII-28)

前種の幼体と思われる。

5. *Monotarsobius elegans* Shinohara, 1957 ダイダイヒトフシムカデ

50exs. (1998-VII-23), 7exs. (1998-VII-25), 2exs. (1998-VII-27), 18exs. (1999-VII-28),
60exs. (1999-VII-28), 16exs. (1999-XI-7)

関東地方に広く分布する小形のイシムカデ類であり、当園においても多数が得られている。

6. *Monotarsobius holstii* (Pocock, 1909) ホルストヒトフシムカデ

2exs. (1998-VII-23), 3exs. (1998-VII-25), 6exs. (1998-VII-27), 21exs. (1999-VII-28),
4exs. (1999-VII-28), 2exs. (1999-XI-7)

広く日本、千島、台湾に分布する種で、当園では土壌調査での記録は多くないが、夏場立ち木の樹皮下に多く見られる。

7. *Monotarsobius sp.* (No.1) ヒトフシムカデ属の一種

3exs. (1998-VII-23), 1ex. (1998-VII-27), 2exs. (1999-VII-28), 1ex. (1999-VII-28),
1ex. (1999-XI-7)

紫褐色の小形のヒトフシムカデであるが、既知種と異なっており、今後の精査が必要な種である。

Monotarsobius sp. ヒトフシムカデ属の一種

39exs. (1998-VII-23), 50exs. (1999-VII-28), 2exs. (1999-XI-7)

前記3種の雌個体または幼体と思われる。

Henicopidae トゲイシムカデ科

8. *Shikokubius japonicus* (Murakami, 1967) メクライシムカデ

2exs. (1998-VII-23), 3exs. (1998-VII-25), 3exs. (1998-VII-27), 15exs. (1999-VII-28),
8exs. (1999-VII-28), 11exs. (1999-XI-7)

村上 (1967) により、*Anopsobius japonicus* と記録された種を篠原 (1982) が本園で採集された標本をもとに新属として記録した種である。本種は関東近辺での採集例は極めて少ない種であるが、当園の生息数は多く、園内では普通種である。

9. *Esastigmatobius japonicus* Silvestri, 1909 ゲジムカデ

3exs. (1998-VII-27), 25exs. (1999-VII-28), 9exs. (1999-XI-7)

俊敏な動きのために方形枠法ではほとんど得ることのできない種であるが、園内各所に生息し、その生息数は少なくない。7月に得られる本種は赤橙色の亜成体であり、秋に得られる個体は灰紫褐色の成体である。

SCOLOPENDROMORPHA オオムカデ目

Scolopendridae オオムカデ科

10. *Scolopendra subspinipes japonica* L. Koch, 1878 アオズムカデ

1ex. (1998-VII-27), 2exs. (1999-VII-28), 1ex. (1999-VII-28), 2exs. (1999-XI-7)

本種は体長 100mmに達する大型のムカデ類であり、現在日本に *S. s. mutilans* と本亜種の2亜種が知られているが、高野(1992)で述べたように亜種としての分類には疑問の残る種である。園内では高島・篠原(1949)に記録された後、報告されていなかった種であるが、今回の調査では、園内各所に生息することが確認されている。

Cryptopidae メナシムカデ科

11. *Scolopocryptops nipponicus* Shinohara, 1990 アカムカデ

12exs. (1998-VII-23), 2exs. (1998-VII-25), 5exs. (1998-VII-27), 13exs. (1999-VII-28), 8exs. (1999-VII-28), 26exs. (1999-XI-7)

本種は、これまで *Scolopocryptops sexspinosus* として記録されていた日本産の種を篠原(1990)が新種として記録した種で、日本各地に分布する種である。当園においては園内広く分布する普通種である。

12. *Scolopocryptops rubiginosus rubiginosus* (L. Koch, 1878) セスジアカムカデ

2exs. (1998-VII-27), 1ex. (1999-VII-28), 7exs. (1999-XI-7)

背板に2縦溝がある点で前種と異なるアカムカデ類であるが、前種が園内広く分布するのに対し、シイ林の一部にのみ記録される種である。日本各地に分布し、関東地方では普通種である。

GEOPHILOMORPHA ジムカデ目

Mecistocephalidae ナガズジムカデ科

13. *Mecistocephalus takakuwai* Verhoeff, 1938 タカナガズジムカデ

82exs. (1998-VII-23), 7exs. (1998-VII-25), 3exs. (1998-VII-27), 7exs. (1999-VII-28), 95exs. (1999-VII-28), 6exs. (1999-XI-7)

関東以南から台湾の各地の森林土壤中に広く分布するジムカデ類であり、園内各所より記録される、当園における優占種である。

14. *Prolamnonyx holstii* (Pocock, 1895) ツメジムカデ

24exs. (1998-VII-23), 5exs. (1998-VII-25), 2exs. (1998-VII-27), 8exs. (1999-VII-28), 18exs. (1999-VII-28), 12exs. (1999-XI-7)

朝鮮、日本各地及び台湾に分布するジムカデ類であり、前種について多いジムカデ類であり、当園の普通種である。

Geopilidae ツチジムカデ科

15. *Cheiletha macropalpus* (Takakuwa, 1935) ツメナシミドリジムカデ

1ex. (1999-VII-28), 1ex. (1999-XI-7)

本州中部以北に分布する北方系のジムカデ類であり、当園において個体数は多くないが記録されている。

16. *Strigamia maritima japonica* (Verhoeff, 1935) ヤマトベニジムカデ

1ex. (1998-VII-25), 1ex. (1999-VII-28), 2exs. (1999-XI-7)

朝鮮、日本各地に分布する赤褐色のジムカデ類であり、当園において個体数は多くないが樹皮下より記録されている。

DIPLOPODA ヤスデ綱

POLYXENIDA フサヤスデ目

Polyxenidae フサヤスデ科

1. *Eudigraphis takakuwai* (Miyosi, 1947) ニホンフサヤスデ

1ex. (1998-VII-23), 3exs. (1999-VII-28)

日本各地に分布する小形のヤスデ類であり、頭部を含め体表に多数の剛毛域を、最終胴節には毛叢を有している。当園ではシイ林のみから記録されている。

GLOMERIDA タマヤスデ目

Glomeridae タマヤスデ科

2. *Hyleoglomeris insularum* Verhoeff, 1936 ミクニマヤスデ

3exs. (1998-VII-25), 2exs. (1998-VII-27), 2exs. (1999-VII-28), 5exs. (1999-XI-7)

東京を模式産地とする、関東地方に広く分布する、黒色小形のヤスデであり、大胸背板に全通する2横溝とその後方に短い3~4条の横溝線を有することにより分類される。当園ではシイ林のみから記録されている。

JULIDA ヒメヤスデ目

Julidae ヒメヤスデ科

3. *Anaulaciulus* sp. フジヤスデ属の一種

1ex. (1998-VII-27), 2exs. (1999-XI-7)

尾状突起が肛門節を越えて伸びていることより本属と同定できるが、今回採集された個体は幼体と雌個体のみであり、種の同定には至らなかった。

CHORDEUMATIDA ツムギヤスデ目

Diplomaragnidae ミコシヤスデ科

4. *Tokyosoma takakuwai* Verhoeff, 1929 フトケヤスデ

6exs. (1998-VII-27), 28exs. (1999-VII-28), 11exs. (1999-VII-28), 13exs. (1999-XI-7)

体長約20mmの小形で体表に毛を密生するヤスデ類であり、関東地方では普通種である。

POLYDESMIDA オビヤスデ目

Paradoxosomatidae ヤケヤスデ科

5. *Nedyopus patrioticus niponianus* (Verhoeff, 1940) ニッポンアカヤスデ

3exs. (1999-VII-13), 6exs. (1999-VII-28), 5exs. (1999-XI-7)

体長約25mm, 背面黒色であるが, 後環節の後方, 側庇及び歩肢は黄色~赤橙色であり, 黒地に黄色~赤橙色横帯模様のヤスデである。現在本種には3亜種が知られているが, 日本産の2亜種については産地が重なっていることや, 形態上の差が明瞭でないなど分類上の問題点も残っている。今回は, 生殖肢の腿節部が著しく半円状に飛び出していることや脛ふ節部の先が円いことなどより, 一応本亜種として同定しておく。東京周辺の市街地では普通種であり, 倒木や石下などに群生するアカヤスデ類である。当園においては現業舎付近の材木置場のみに記録されている。

6. *Nedyopus tambanus tambanus* (Attems, 1901) アカヤスデ

2exs. (1998-VII-27), 3exs. (1999-VII-28), 2exs. (1999-XI-7)

日本各地の森林土壤中に生息するアカヤスデ類で, 前種のような群生は見られない種である。関東地方では普通種であるが, 当園での個体数は多くはない。

Nedyopus sp. アカヤスデ属の一種

13exs. (1998-VII-23), 13exs. (1999-VII-28), 3exs. (1999-XI-7)

前記2種の幼体と思われる。

7. *Oxidus gracilis* (Koch, 1940) ヤケヤスデ

7exs. (1998-VII-25), 9exs. (1998-VII-27), 11exs. (1999-VII-28), 24exs. (1999-XI-7)

凡世界的に分布する普通種である。当園においても園内各所で記録されている。

Polydesmidae オビヤスデ科

8. *Epanerchodus orientalis* (Attems, 1901) ヒガシオビヤスデ

3exs. (1998-VII-27), 2exs. (1999-VII-28), 4exs. (1999-XI-7)

日本, 台湾に生息する暗褐色, 体長約20mmのヤスデ類である。関東地方では普通種であるが, 当園における個体数は多くない。

9. *Epanerchodus* sp. オビヤスデ属の一種

1ex. (1999-VII-28), 1ex. (1999-VII-28), 2exs. (1999-XI-7)

本種は小形であること, 背板, 側庇の形が異なっていることより, 前種と明らかに異なっているが, 今回得られているのは全て, 幼体と雌個体のみであり, 種の同定は不能であった。

Cryptodesmidae シロハダヤスデ科

10. *Niponia nodulosa* Verhoeff, 1931 マクラギヤスデ

11exs. (1998-VII-23), 10exs. (1998-VII-25), 21exs. (1998-VII-27), 36exs. (1999-VII-28), 9exs. (1999-VII-28), 64exs. (1999-XI-7)

台湾から関東以南に分布するヤスデ類であり, 市街地近郊の林内に生息することの多い種である。成体は茶黒色土色であるが幼体は白色~白黄色である。方形枠法では前記種の *N. sp.* より出現個体数はやや少ないが, 園内至る所の倒木下や朽ち木内に群生が見られ, 当園におけるヤスデ類の優占種である。

Pyrgodesmidae ハガヤスデ科

11. *Ampelodesmus granulatus* Miyosi, 1956 ハガヤスデ

13exs. (1998-VII-25), 2exs. (1998-VII-27), 15exs. (1999-VII-28), 19exs. (1999-VII-28), 35exs. (1999-XI-7)

アリと共生する暗緑色、小形のヤスデ類で、一般に1か所に数個体が群生することの多い種であるが、園内には個体数が多く、数十個体が倒木下などのアリの巣内に群生している。

12. *Cryptocorypha japonicus* (Miyosi, 1957) オオギヤスデ

12exs. (1998-VII-23), 3exs. (1998-VII-25), 6exs. (1998-VII-27), 16exs. (1999-VII-28),
8exs. (1999-VII-28), 18exs. (1999-XI-7)

関東以南の日本各地～台湾に生息する、淡赤褐色、体長4～4.5 mmの小形のヤスデ類である。園内では個体数が多く、各植生より得られる優占種の1種である。

3. 調査結果

今回の調査で得られた種類は唇脚類4目7科13属16種であり、倍脚類5目8科10属12種であった。この内今回初めて記録された種は ゲジ *Thereuonema tuberculata*, スジシムカデ *Lithobius sulcipis*, ヒトフシムカデ属の一種 *Monotarsobius* sp. (No.1), ニッポンアカヤスデ *Nedyopus patrioticus niponianus*, アカヤスデ *Nedyopus tambanus tambanu*, フジヤスデ属の一種 *Anaulaciulus* sp. の6種であるが、*N. patrioticus niponianus* は人家付近に群生することの多い種であり、今回生息が確認された場所が現業舎付近の材木置き場のみであることから、最近外部から移入してきた種と考えることができる。また *N. tambanus* は前種と同じ属であるが、自然度の高い森林土壤中に生息することが多い種であり、前種と異なり群生は見られないためこれまでの調査からもれていたものと思われる。また *T. tuberculata* は乾燥した崖地に多い種であり、生息域がこれまで土壤動物の調査の対象とならなかったものと思われる。*L. sulcipis* 及び *M. sp.* (No.1) については、これまでの調査で *L. sp.* 及び *M. sp.* と記録された種と同種の可能性が高い種である。なお *A. sp.* については、今回の調査で3個体得られているが、幼体と雌成体のみであり種の同定には今後の精査が必要である。

過去に記録されていて今回記録されない種はアカムカデの一種 *Scolopocryptops* sp., ツチムカデ属の一種 *Geophilus* sp., ニブズジムカデ属の一種 *Nodocephalus* sp., ウチカケヤスデ *Eucondylodesmus elegans*, コブヤスデ *Pseudocatapyrgodesmus glaucus* の5種であるが、これらの内、*S. sp.* を除き、主として土中に生息するジムカデ類と小形のヤスデ類であり、全ての種や属が東京周辺地域に生息する種である。従って今後の精査によっては記録される可能性のある種である。また高島・篠原(1949)が同定に疑問があるがとして記録している ニクイロババヤスデ *Parafontaria acutidens*? については、今回近縁の属も得られてなく、また大型のヤスデ類であることを考えると、現在は当園には生息していないものと考えられる。なお、*S. sp.* は、篠原(1981)が最終歩肢の脛節およびふ節にやや長い毛が多数生じていると記録していることより、その後 Shinohara (1984) で記載された ムサシアカムカデ *S. musashiensis* と同種と思われる種であり、かつ篠原(1966)が *S. capillipedatus* subsp. として当園より記録した種と同種と考えられる。本種は朽ち木中の孔隙等に生息する性質があり、今後の精査によっては記録される可能性のある種である。

当園における多足類の生息個体数の調査は、方形枠法で行った。その結果唇脚類498個体、倍足類100個体の計598個体得られているが、この内出現個体数の多い種は、唇脚類ではタカナカズジムカデ *Mecistocephalus takakuwai* で35.1%, ついでダイダイヒトフシムカデ *Monotarsobius elegans* 22.1%, ツメジムカデ *Prolamnonyx holstii* 8.4%, イッスンムカデ *Bothropolys asperatus* 7.8% の順であり、倍脚類ではアカヤスデ属の一種 *Nedyopus* sp. 26% が最も多く、ついで オオギヤスデ *Cryptocorypha*

japonicus 21%, マクラギヤスデ *Niponia nodulosa* 20%, ハガヤスデ *Ampelodesmus granulosus* 19% の順であった。これらの内 *N. sp.* は調査時期に幼体であることや *B. asperatus* は主に朽ち木の樹皮下に生息し方形枠では得られにくいなど調査時期や調査方法によって出現個体数が異なることなどにより正確な現存数を求めることは困難であるが、ハンドソーティング等の個体数調査においても *N. sp.* を除き上記種類が上位を占めており、*N. sp.* を除くこれらの種が当園の優占種であると言える。なお優占種の内、*M. takakuwai*, *P. holstii* は主としてA層中に生息するのに対し、*M. elegans*, *B. asperatus*, *C. japonicus* 及び *N. nodulosa* は A₀層中に生息し、特に *B. asperatus* と *N. nodulosa* については、園内各所の朽ち木下や朽ち木の樹皮下に群生が見られる。

植生別多足類相の調査は、方形枠によるシフティング調査とハンドソーティングによる一定時間採集法によって行った。

方形枠調査では、各区任意に定めた3か所を調査地とし土壌を採取し(25cm×25cm×深さ15cm)、シフティング後、ハンドソーティングによって多足類の抽出を行った。その結果各調査区別の出現個体数は最大値93、最小値32であった。植生別出現個体数順はマツ林>シイ林>コナラ林>ムク林の順であったが、その差は僅かであり、今回調査した4種類の植生の差による多足類現存数への影響は少ないものと思われる。なお調査年度により、フトケヤスデ *Tkyosoma takakuwai* と ハガヤスデ *Ampelodesmus granulosus* に大きな差が見られるが、これは調査を行った時期に *T. takakuwai* が幼体であることと *A. granulosus* がアリの巣に共生することに起因するものと考えられる。

一定時間採集法の調査は、各区30分間のハンドソーティングにより、各種個体数5個体以内採集で筆者自身が行った。それによれば、植生別出現種類数は、シイ林で最も多くの種類数が記録されているが、他の植生間ではほとんど差が認められなかった。これはセスジアカムカデ *Scolopocryptops rubiginosus rubiginosus*, ニホンフサヤスデ *Eudigraphis takakuwai* および ミクニタマヤスデ *Hyleoglomeris insularum* の3種がシイ林のみから記録されていることによるが、これらの種が関東周辺地域の他の植生から得られていることより、植生の差によるものではなく、別のファクターに起因するものとも考えられる。従って今回の調査で植生による種組成の違いは認められなかった。

表1 方形枠法による植生別多足類出現個体数(各区25cm×25cm×15cm×3カ所×2回)

種 類		植 生		マツ林		コナラ林		シイ林		ムク林		計		
				1	2	1	2	1	2	1	2	10年	11年	総計
唇	<i>Bothropols asperatus</i>			9	8	9	0	6	4	1	2	21	18	39
	<i>Lithobius</i> sp.			0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	2
	<i>Monotarsobius elegans</i>			18	20	11	13	10	14	6	18	50	10	110
	<i>Monotarsobius holstii</i>			3	0	1	0	0	0	0	0	3	1	4
	<i>Monotarsobius</i> sp. (No.1)			0	0	1	2	1	1	1	0	2	4	6
脚	<i>Monotarsobius</i> sp.			18	10	8	9	3	15	0	26	39	50	89
	<i>Shikokubius japonicus</i>			0	0	1	0	6	2	1	0	2	8	10
	<i>Scolopendra subspinipes japonica</i>			1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	<i>Scolopocryptops nipponicus</i>			6	2	3	2	1	4	2	0	12	8	20
	<i>Mecistocephalus takakuwai</i>			25	26	46	15	13	25	7	18	82	95	175
類	<i>Prolamnonyx holstii</i>			3	6	4	3	12	3	5	6	24	18	42
	<i>Eudigraphis takakuwai</i>			0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
	<i>Tokyosoma</i> sp.			1	0	0	0	9	0	1	0	0	11	11
	<i>Nedyopus</i> sp.			1	1	4	1	15	3	1	0	13	13	26
	<i>Oxidus gracilis</i>			0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
倍	<i>Epanerchodus</i> sp.			1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	<i>Niponia nodulosa</i>			3	0	1	5	7	1	4	5	11	9	20
	<i>Ampelodesmus granulatus</i>			4	0	0	4	2	5	2	2	0	19	19
	<i>Cryptocorypha japonicus</i>			0	2	1	5	0	2	1	4	12	8	21
	計			93	76	91	59	86	80	32	81	273	325	598

表2 一定時間採取法による植生別多足類出現個体数(30分間×2回)

種 類		植 生		マツ林		コナラ林		シイ林		ムク林		計	
				1	2	1	2	1	2	1	2		
唇	<i>Thereuonema tuberculata</i>			0	1	0	1	0	0	0	0	2	
	<i>Thereuopoda clunifera</i>			0	0	2	0	1	0	0	0	3	
	<i>Bothropols asperatus</i>			5	5	5	5	5	5	5	5	40	
	<i>Lithobius sulcipes sulcipes</i>			0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	<i>Monotarsobius elegans</i>			4	5	5	5	5	5	3	5	37	
脚	<i>Monotarsobius holstii</i>			0	3	0	0	0	0	0	0	3	
	<i>Monotarsobius</i> sp. (No.1)			0	0	0	1	1	1	0	0	3	
	<i>Monotarsobius</i> sp.			3	2	2	3	3	4	4	2	23	
	<i>Shikokubius japonicus</i>			2	4	0	1	3	0	0	5	15	
	<i>Esastigmatobius japonicus</i>			0	1	3	0	0	0	0	0	4	
類	<i>Scolopendra subspinipes japonica</i>			1	0	0	0	1	1	0	1	4	
	<i>Scolopocryptops nipponicus</i>			5	2	1	0	0	5	5	4	22	
	<i>Scolopocryptops rubiginosus rubiginosus</i>			0	0	0	0	5	0	0	0	5	
	<i>Mecistocephalus takakuwai</i>			5	5	4	5	3	4	2	5	33	
	<i>Prolamnonyx holstii</i>			2	2	3	1	5	3	3	1	20	
倍	<i>Cheiletha macropalpus</i>			0	0	1	0	0	0	1	0	2	
	<i>Strigamia maritima japonica</i>			1	0	0	0	0	1	0	0	2	
	<i>Eudigraphis takakuwai</i>			0	0	0	0	2	1	0	0	3	
	<i>Hyleoglomeris insularum</i>			0	0	0	0	5	0	0	0	5	
	<i>Anaulaciulus</i> sp.			0	0	0	1	0	1	0	0	2	
脚	<i>Tokyosoma takakuwai</i>			0	3	0	2	0	0	5	4	14	
	<i>Nedyopus tambanus tambanus</i>			0	0	2	0	0	0	2	1	5	
	<i>Nedyopus</i> sp.			1	0	0	0	1	1	0	0	3	
	<i>Oxidus gracilis</i>			0	0	0	0	5	0	5	0	10	
	<i>Epanerchodus orientalis</i>			0	0	0	0	4	0	0	2	6	
類	<i>Epanerchodus</i> sp.			0	1	0	1	0	1	0	0	3	
	<i>Niponia nodulosa</i>			5	5	5	5	5	5	5	5	40	
	<i>Ampelodesmus granulatus</i>			0	0	5	5	5	5	5	0	25	
	<i>Cryptocorypha japonicus</i>			5	0	1	0	3	3	2	3	17	
	計			30	39	40	36	62	46	47	43	352	
種 数				11	12	13	12	17	15	12	13	27	

参 考 文 献

- 高島春雄・篠原圭三郎. 1949. 自然教育園の多足類. *Acta Arachnologica*, 11, 3/4 : 95-96.
- 篠原圭三郎. 1966. 自然教育園の多足類. 自然教育園の生物群集に関する調査報告 第1集, 124-128.
- 篠原圭三郎. 1981. 自然教育園の脣足類と倍足類. 自然教育園報告, 12 : 89-91.
- Shinohara, K. 1982. A New Genus of the Subfamily Anopsobiinae (Henicopidae, Chilopoda).
The Proceeding of the Japanese Society of Systematic Zoology, 24 : 41-46.
- Shinohara, K. 1984. Two New Species of the *Scolopocryptops* from Japan (Chilopoda : Cryptopidae). *EDAPHOLOGIA*, 31 : 39-42.
- Shinohara, K. 1990. A New Species of the Genus *Scolopocryptops* (Chilopoda : Cryptopidae) from Japan. The Proceeding of the Japanese Society of Systematic Zoology, 41 : 62-65.
- 高野光男. 1992. 日本産アオズムカデの検討. *TAKAKUWAIA*, 24 : 61-64.

Summary

This paper is faunistic report on the Chilopoda and Diplopoda of the Institute for Nature Study in Tokyo, Japan, was based on the field investigations by the author made during August 1998 and May 2000. Chilopoda of 16 species under 7 families, and Diplopoda of 12 species under 8 families were of served in the Institute for Nature Study in Tokyo, of which 6 species were found to be those which had not been discovered before. The Chilopoda and Diplopoda fauna of various forests are discussed.